

1. 応募の動機・理由を簡単にご記入ください。

平成 20 年 8 月に発足した本協議会は、大阪府下の建築士の団体である、(公社)大阪府建築士会、(公社)日本建築家協会近畿支部、(一社)日本建築協会、(一社)大阪府建築士事務所協会に加えて、(一財)大阪建築防災センター、(一財)大阪住宅センターと大阪府の 7 団体で構成しています。各団体から 3~4 名ほどの常任委員を出し、大阪府下の小中学校および教員の要請を受けて出前授業を実施しています。現在のスタッフではすべての出前授業の要請に応えることができないことから、より多くのスタッフに授業の内容を広めるための教材作成・整備のために応募いたしました。

2. 学習予定の概要を以下の 3 点について記入してください。

(A 中心となる活動, B 授業の狙いと特徴, C 学習の流れ (指導計画))

A 中心となる活動

授業名「建築とバリアフリー」

B 授業の狙いと特徴

バリアフリーという考え方の原点、ユニバーサルデザインへの発展、様々なハンディキャップを持つ多様な人がより快適に安心して暮らせるような建築やまちづくりについて考えます。実際の建物やまちにどのような課題があり、それを建築士がどのように工夫して解決しているのか、さらに誰もが寄り使いやすくなるような手法やアプローチについて生徒たちに投げかけ、考えるきっかけを与えます。

C 学習の流れ (指導計画)

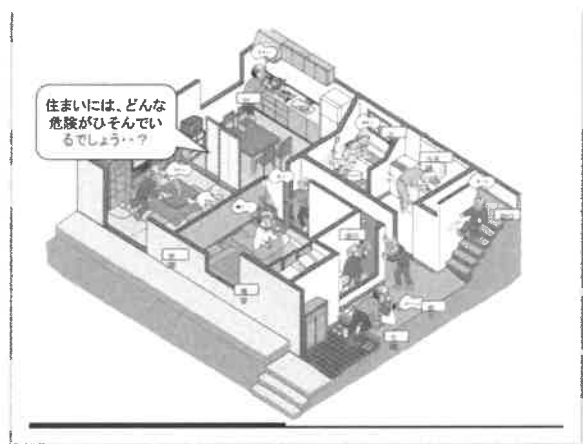
事前に作成して用意している JR 大阪駅、大阪中央公会堂に取り入れられているバリアフリーの工夫を紹介、どこがどのように工夫されているのか、なぜそうなっているかをクイズ形式で学ぶ。

車椅子、白杖体験、ユニバーサルデザイン商品体験、ブラインドサッカーや点字・手話などをおして、ハンディキャップを体験し、普段の生活との違いを体験する。

それらの体験を経て、建物やまちの中に潜む危険や不都合を発見し、高齢者や障がいを持つ人が安心して暮らすためにどのような工夫が必要かを考える。

これらの授業はすべて建築士が行う。

<バリアフリー教材(スライド)の一部>



<ハンディキャップ体験の様様>



その他特記事項がありましたらお書きください

- ・ 建築士が準備して、直接出向き授業をすることがもっとも特徴的だと考えています。
- ・ 授業の内容や進め方については、事前に担当教員と相談・検討を行って実施しています。
- ・ 教員に向けた授業コンテンツの整備、出前授業ができる建築士の拡充などのために、教材・授業マニュアルの充実を目指しています。

※複数枚になってもかまいません。

※他に添付資料がありましたらお付けください。



住まい・まちづくり教育について

府民が自らの住まいやまちに対する関心と理解を深め、自らに合った住まいを選択するとともに、住まい・まちづくりの担い手として主体的に取り組むことが出来るよう、子供を対象とした住まい・まちづくり教育を行っています。

■ 実施主体 大阪府住まい・まちづくり教育普及協議会（平成20年8月22日設立）

構成団体 大阪府（都市居住課、建築防災課、公共建築室計画課）

（一社）大阪府建築士事務所協会（事務局）、（公社）大阪府建築士会、

（一財）大阪住宅センター、（一財）大阪建築防災センター、

（公社）日本建築家協会近畿支部（H21年7月）（会長）、（一社）日本建築協会（H21年10月）

会 長 橋本 頼幸

- 経 緯 平成15年度～平成16年度 府職員等による出前講座のモデル実施
 平成17年度～平成19年度 府から事務所協会への委託で運営
 平成20年度～ 協議会による自主運営

■ 出前講座等の実績

年度	内容	学校名・場所（テーマなど）
30	出前講座 (15校)	豊中市立南丘小学校（快適な住まい） 6年生71名
		阪南市立上荘小学校（先生に向けた講座） 教員20名
		堺市立新金岡小学校（防災） 60名
		東大阪市立藤戸小学校（快適な住まい） 65名
		大阪市立深江小学校（防災） 44名
		大阪市立御幣島小学校（快適な住まい） 92名
		摂津市立味生小学校（建築とバリアフリー） 44名
		大阪市立内代小学校（建築とバリアフリー） 62名
		大阪市立焼野小学校（建築とバリアフリー） 50名
		高石市立清高小学校（防災） 93名
		東大阪市立意岐部小学校（ユメイエ） 72名
		大阪市立味原小学校（防災） 66名
		泉大津市立楠小学校（快適な住まい） 92名
		大阪市立波除小学校（建築とバリアフリー） 113名
		岸和田市立天神山小学校（ユメイエ） 68名
その他	大阪府北部地震に対する学校・通学路の『安全チェック・ボランティア』 11校	

29	出前講座 (20校)	<p>寝屋川市立第八中学校(先生向けの講座) 教員 10名</p> <p>堺市立宮山台小学校(快適な住まい) 6年生 46名</p> <p>吹田市立佐竹台小学校(防災) 6年生 94名</p> <p>大阪市立森之宮小学校(建築とバリアフリー) 5年生 24名</p> <p>柏原市教育研究会技術・家庭科部会(先生向けの講座) 教員 10名</p> <p>大阪市立四貫島小学校(快適な住まい) 5年生 22名</p> <p>堺市立赤坂台小学校(建築とバリアフリー) 3年生 56名</p> <p>大阪市立長吉南小学校(防災) 5年生 65名</p> <p>枚方市立菅原東小学校(快適な住まい) 6年生 133名</p> <p>豊中市立新田南小学校(防災) 5年生 85名</p> <p>東大阪市立高井田東小学校(建築とバリアフリー) 6年生 85名</p> <p>豊中市立新田小学校(建築とバリアフリー) 5年生 122名</p> <p>東大阪市立玉美小学校(快適な住まい) 6年生 65名</p> <p>関西大学第一中学校(先生向けの講座) 教員5名</p> <p>箕面市立豊川南小学校(快適な住まい) 6年生 137名</p> <p>東大阪市立意岐部小学校(コメイ工) 6年生 54名</p> <p>高槻市立郡家小学校(コメイ工) 6年生 111名</p> <p>守口市立寺方小学校(快適な住まい) 6年生 46名</p> <p>大阪私立高等学校家庭科研究会(先生向けの講座) 教員 20名</p> <p>河内長野市立加賀田小学校(防災) 5・6年生 107名</p>
28	出前講座 (17校)	<p>岬町立多奈川小学校(快適な住まい) 5・6年生 29名</p> <p>大阪市立九条東小学校(快適な住まい) 5・6年生 52名</p> <p>堺市立新金岡東小学校(快適な住まい) 6年生 32名</p> <p>堺市立家原寺小学校(防災) 5・6年生 78名</p> <p>泉大津市立東陽中学校(先生に向けた授業) 中学校教員 40名</p> <p>大阪市立苅田北小学校(快適な住まい) 6年生 67名</p> <p>大阪市立新金岡小学校(防災) 4年生 63名</p> <p>大阪市立東淀中学校(防災) 2年生 198名</p> <p>大阪市立長吉南小学校(防災) 6年生 37名</p> <p>八尾市立曙川小学校(快適な住まい) 6年生 52名</p> <p>堺市立中学校教育研究会家庭科部会(先生に向けた授業) 中学校教員 20名</p> <p>東大阪市立意岐部小学校(快適な住まい) 6年生 71名</p> <p>豊中市立泉丘小学校(快適な住まい) 6年生 138名</p> <p>高石市立清高小学校(防災) 5年生 32名</p> <p>吹田市立吹田第六小学校(コメイ工) 5年生 52名</p> <p>堺市立美木多小学校(防災) 6年生 116名</p> <p>箕面市立東小学校(快適な住まい) 6年生 111名</p>
	イベント等	木のぬくもり森のママまつり in 大阪(キットハウス)

27	出前講座 (13校)	富田林市立久野喜台小学校 (快適な住まい) 岸和田市教育委員会 (全テーマ) 大阪市立中学校教育研究会 第7ブロック家庭科 (全テーマ) 堺市立新金岡小学校 (防災) 大阪市立東淀中学校 (防災) 島本町立第一中学校 (防災) 大阪市立築港中学校 (防災・バリアフリー) 吹田市立山田東中学校 (バリアフリー) 大阪市立文の里中学校 (防災) 河内長野市立加賀田小学校 (防災) 高槻市立樫田小学校 (防災) 東大阪市立太平寺小学校 (快適な住まい) 茨木市立福井小学校 (快適な住まい)
	イベント等	木のぬくもり森のママまつり in 大阪 (キットハウス)
26	出前講座 (8校)	枚方市立藤阪小学校 (快適な住まい) 松原市立松原第二中学校 (先生ミーティング) 吹田市立古江台小学校 (バリアフリー) 枚方市立招提小学校 (快適な住まい) 吹田市立山田東中学校 (バリアフリー) 交野市立第三中学校 (職業講話) 国立大学法人大阪教育大学附属平野中学校 (防災) 八尾市立桂小学校 (快適な住まい・キットハウス)
	イベント等	(一財)大阪住宅センター主催の住宅セミナー (花博住宅展示場) 木のぬくもり森のママまつり in 大阪 (キットハウス)
25	出前講座 (8校)	東大阪市立菱屋西小学校 (みんなで考えよう～防災について～) 堺市立八田荘西小学校 (防災を学ぶ) 富田林市立久野喜台小学校 (建築とバリアフリー) 東大阪市立小阪小学校 (建築と防災について) 大阪市立築港小学校 (建築と防災について) 枚方市立菅原東小学校 (1枚の壁からまちをつくろう) 大阪市立築港小学校 (建築とバリアフリー) 枚方市立明倫小学校 (防災を学ぶ)
	イベント等	大阪住宅センター主催の住宅セミナー (花博住宅展示場) 万博公園イベント
24	出前講座 (4校)	高槻市立土室小学校 (防災を学ぼう) 高石市立高石小学校 (防災マップ作成) 枚方市立明倫小学校 (建築とバリアフリー) 富田林市立高辺台小学校 (防災について)

	イベント等	(財)大阪住宅センター主催の住宅セミナー（花博住宅展示場）、 原町児童センター（キットハウス）
23	出前講座 （5校）	豊中市立第十五中学校（防災を学ぼう） 岸和田市立山滝小学校（防災を学ぼう） 枚方市立西牧野小学校（建築とバリアフリー） 堺市立安井小学校（防災を学ぼう） 箕面市立中小学校（防災を学ぼう）
	イベント等	(財)大阪住宅センター主催の住宅セミナー（花博住宅展示場）、 南吹田児童センター（キットハウス）
22	出前講座 （5校）	私立被昇天小学校（建築とバリアフリー） 箕面市立豊川南小学校（ユメイエ） 大阪市立加美小学校（防災を学ぼう） 門真市立四宮小学校（建築とバリアフリー） 守口市立三郷小学校（建築とバリアフリー）
	イベント等	(財)大阪住宅センター主催の住宅セミナー（花博住宅展示場）、 豊一児童センターでのイベント
21	出前講座 （5校）	東大阪市立荒川小学校（防災、地域の防災マップづくり）、 枚方市立菅原東小学校（ユメイエ、防災）、 堺市立福泉中央小学校（ユメイエ）、 大阪市立巽小学校、門真市立四宮小学校（バリアフリー）
	イベント等	水都おおさか水辺のにぎわいフェスタ、 水都おおさか森林の市2009（林野庁近畿中国森林管理局）、 (財)大阪住宅センター主催の住まいづくりセミナー（花博住宅展示場）、 吹田歴史文化まちづくりセンター（浜屋敷）でのイベント、 教材作成（おおさかふれあいおりがみ）
20	出前講座 （4校）	松原市立松原小学校（夢の家）、 松原市立松原中央小学校（バリアフリー） 豊中市立庄内小学校（バリアフリー） 八尾市立桂小学校（快適な住まい）
	イベント等	水都おおさか森林の市2008（林野庁近畿中国森林管理局）、 (財)大阪住宅センター主催の住宅セミナー（花博住宅展示場）、 快適住宅フェア2009（(社)大阪国際見本市委員会）、 教材作成（冊子「ユメイエ」、キットハウス）
19	出前講座 （4校）	堺市立鳳南小学校（バリアフリー） 松原市立松原中央小学校（バリアフリー） 松原市立松原小学校（バリアフリー） 八尾市立桂小学校（快適な住まい）
18	出前講座 （2校）	堺市立鳳南小学校（バリアフリー）、 八尾市立桂小学校（快適な住まい）

15	出前講座 (3校)	高槻市立柳川小学校 (バリアフリー) 高槻市立第八中学校 (バリアフリー) 八尾市立北山本小学校 (まちあるき、キットハウス)
----	--------------	---



出前講座メニュー

大阪府住まい・まちづくり教育普及協議会

大阪府内の小学校に建築士やその他の専門家を派遣して下記の様な住まいやまちづくりに関する授業を行っています。

1. 快適な住まい

①世界の様々な家の話

気候や文化によって家の形や材料は大きく異なり、日本の中でも北海道と沖縄の家では全く別の考え方で建てられています。それらを比較しながらその違いにある快適に暮らす工夫をクイズ形式で楽しく説明します。
(テキストp5~12)



②熱環境の話

部屋を暖めたり涼しくするためには室温（空気の温度）だけでなく壁や床、天井の表面温度を調節する必要があることを、温度が見えるサーモグラフカメラで教室を映しながら説明します。



形態：講義(①と②の2コマ)、講義+ワークショップ(①2コマまたは②2コマのいずれか)

2. 建築とバリアフリー

日本におけるバリアフリーの起源、大阪駅や中央公会堂を具体例としてどのような工夫がされているのかを紹介しつつ、まちで暮らす人々にとっての生活しやすさ、住宅の中のバリアフリーとはなにかを説明いたします。視覚障害者(白杖)介助などの体験を行うこともできます。(テキストp17~20)



形態：講義のみ、講義+体験(2コマ)

3. まちと防災

災害とはどういうものか、災害が起こったらどうしたらよいのかを説明いたします。座学の他に①防災グッズ・非常食・防災マップ、②防災スリッパ、③ロープワーク、④毛布担架、等の体験学習があります。(テキストp1~4)



形態：講義+体験(2コマ)

4. コメのイエ・コメのマチ

4時限連続授業として、1時限目に自分たちの暮らす住まいやまちづくりについて話し合い、2時限目に理想の住まいを考え、3・4時限目に画用紙等を使って模型を作成します。



形態：1日目 講義+ワークショップ(2コマ)
2日目 ワークショップ(2コマ)

5. 先生に向けた講座

上記のメニューを先生に対し実施いたします。3名以上のグループでお申し込みください。講座には指定の会場の他にも本会の会議室をご利用いただけます。資料など全てデータでお渡しできますので、ぜひ授業にお役立てください。

住まい・まちづくり教材を作っています。



『ユメイエ。』

子どもたちに理想の住まいを考えてもらうための冊子です。
ご希望の方に「ユメイエ。」を無料で差しあげます。
お申し込みはメールもしくはお電話にてご連絡ください。
(1団体につき1冊)

大阪府下では小中学校向けに建築士による住まい・まちづくりについての出前講座が行われているそうです。この活動について大阪府住まい・まちづくり教育普及協議会会長の橋本頼幸さんにご紹介いただきました。

住まい・まちづくり教育が目指す先

橋本 頼幸

大阪府住まい・まちづくり教育普及協議会会長（2017年度から）

1996年大阪府立大学大学院工学研究科修士、2003年こま設計室設立、2015年～株式会社に改組、現在代表取締役
2003年大阪府立大学で学位（工学博士）取得後、大学非常勤、岡山理科大学准教授を経て現在京都美術工芸大学特任教授（非常勤）

皆さんは、ふと思いつく建築景色や建築関係者の話と聞いてどんなものがありますか？生まれ育った家の風景やにおい、通っていた小学校やピアノ教室などのインテリア、おじいちゃん・おばあちゃんの家の間取り、思い出そうとすると断片的ではあるものの思い出せるものが見聞きした建築現場の施工さんや職人さんたちの印象に残っている話もたくさんあると思います。

私たちの多くは、病院で生まれ、住宅で育ち、学校・職場に行き、最後は葬儀場に行くこととなります。意識するしなにかかわらず、人生のどの場面でも建築がついて回ります。来る日も来る日も建築がすぐそばにある生活をしているにも関わらず、建築について深く考える機会は多くありません。しかもそれを子ども時代に専門的に教えてもらうことは少ないのではないのでしょうか。

大阪府住まい・まちづくり教育普及協議会とは

平成二〇年八月二二日に設立されました。構成団体は、大阪府、（一財）大阪建築防災センター、（一財）大阪住宅センター、（公社）大阪府建築士会、（一社）大阪府建築士事務所協会、（公社）日本建築家協会近畿支部、（一社）日本建築協会の七団体です。常任委員は、大阪府から住宅まちづくり部の建築防災課・公共建築室計画課・都市居住課から計一〇名程度、各団体から三名程度で合計三〇名程度です。常任委員とは別に、出前授業などの際に協力頂くサポーター委員が各団体・大学等から三二名（平成三〇年三月末現在）おられます。

協議会前身からの活動

平成一五年度と平成一六年度は大阪府職員を中心とした出前講座のモデル実施からは始まり、平成一七年度から平成一九年度は、大阪府から大阪府建築士事務所協会への委託で運営されてきました。一五年度は、バリアフリーを高槻市の小中学校の二校、まちあるき・キットハウスを八尾市の小学校の計三校で始まり、一八年度は二校（バリアフリーと快適な住まい）、一九年度は四校（同）でした。

平成二〇年に普及協議会が設立され自主運営になってからは、ユメイエの教材作成（平成二〇年度）、二〇年から二四年までが毎年四〜五校、二五年と二六年が八校、二六年にテキスト教材「住まい・まちづくりを考えよう（三二ページ）」を（公財）建築技術教育普及センターの普及事業助成で作成してから、二七年が一四校、二八年が一七校、二九年が二四校と飛躍的に伸びてきました。

テキスト教材・ロゴ（愛称）・マニュアルづくり

協議会は、前身のモデル実施から一五年にわたる活動ですが常に手探りで進んでいます。授業の内容も毎回と言っているほどブラッシュアップしてよりよいわかりやすい授業内容になるように追求しています。協議会では前述の通り、「ユメイエ」と「住まい・まちづくりを考えよう」の二つの冊子を作成しています。特に「住まい・まちづくりを考えよう」は協議会のホームページ（<http://www.oar.or.jp/denae/>）で全編ダウンロードが可能です。このテキストは、小中学校の先生方の手引きになるように、見開き一ページ（A4サイズ二ページ）を一時限

の授業で使えるような構成になっています。地震の話（二單元）、いえのはなし（四單元）、まちの魅力のはなし（二單元）、「くらす」にほしい場所のはなし（四單元）、バリアフリーの話（二單元）と合計一四単元の授業ができるようになっていきます。

一方、協議会の名称が「大阪府住まい・まちづくり教育普及協議会」と非常に長い名前と活動のポイントとなるようなロゴがなかったため、ロゴと愛称も平成二九年に作り直しました。愛称は「大阪府住まい・まちまなぶプロジェクト」、ロゴは図1の通りです。

授業も手探りで常にブラッシュアップしているとはいえず、担当者によって内容にバラつきが生じないように、昨年度から各授業でマニュアル作りに取りかかっており、初めての人も授業ができるように工夫を重ねています。

提供している授業

小中学校への出前授業は、以下のような流れで行われます。五月初旬に大阪府下の全公立小中学校に案内と申込書を配付し、受付をはじめます。申し込まれた後、常任委員が出席し月一回行われる全体会議において内容を確認し、実施決定された学校に対して、事前の打ち合わせを行います。学校に向き学校の要請に応えられるか、設備や体制が整っているかを確認した後、出前講座の実施となります。ちなみに、出前講座は全て無料で行われており、現在まで小中学校の費用負担はありません。

提供されている授業は、「防災」「建築とバリアフリー」「ユメイエ」「快適な住まい」の四講義と先生向けの講義を



写真7・8 「ユメイエ。」ユメイエ完成模型



写真5・6 「ユメイエ。」ユメイエ製作風景
スタッフも懸命に子供たちの描いた形が作れるようサポート



写真3 「防災」講義



写真1 「快適な住まい」講義



写真9 先生に向けた講義



写真5・6 「ユメイエ。」ユメイエ製作風景
スタッフも懸命に子供たちの描いた形が作れるようサポート



写真4 「ユメイエ。」話ごとに分かれてユメイエルールについて議論



写真2 「建築とバリアフリー」車いす体験・実習

行っています。

防災…(一財)大阪建築防災センターの発行する冊子を元に、災害について勉強を行い、地震などの災害に強い家やまちづくりについて学びます。

建築とバリアフリー…バリアフリー建築とはどのような点を工夫しているか、建築士の立場からどのように設計しているのか等を学びます。また、車いす体験やバリアフリー製品を体験することにより高齢者、障がい者などについての理解を深めてもらいます。

ユメイエ…建物や建物とまちとの関係、気候・風土に合った住まいについて考え、自分の描くユメイエを子供たちに描いてもらいます。グループになって、各まちのルールを決めて、自分の描くユメイエやまちを画用紙などで作成します。

快適な住まい…明るさ、風通しなど、快適な住まいの必要な要素について学びます。快適な住まいを作る上で工夫されている点はなにかを建築士の立場から紹介します。

教員向け講座…これらの授業のポイントや何を伝えているかと言ったことを、教員向けにダイジェスト版でお話しし、各学校で教員ができるような工夫をお伝えします。

そして各授業の初めには、必ず建築士とはどんな資格か、建築家とは何をしてる人か、それがポランテアでどうして子供たちに授業をするのか、といったことを話すようにしています。

出前授業では実際に我々が授業をしますが、次の段階で教員が担当してできるような授業にしていくことを目指しています。一方で、各授業の最後に小中学校の先生達から「自分達も知らなかった」

というような感想が聞けることもあります。

協議会が目指す先

小中学校で私達が授業を担当することによって、子どもたちが建築士を目指すきっかけになれば嬉しいことです。しかし、すべての子供達に将来の建築技術者になってほしいと考えているわけではありません。

建築はみんなが使うものです。建築の使い手として知ってもらいたいこと、そして将来建築発注者になったときに知っておくといいことを伝えることができれば、この事業のほとんどの目的は達成すると考えています。建築はこんなことを考えて作られているのだということをおちよつと知ってもらい、知るきっかけを提供することが私達建築のプロフェッショナルが、子どもたちにできることだと思っています。

すべての建築が、昔から様々な工夫を積み重ね、多くの人の知恵を集約して構成されているものであることを知れば、建築が楽しくなり、建築を使いこなすことにつながっていきます。そうなること、自ずと建築に対して愛着を持つようになり、建築を大切にしようと思えます。すると、そういった建築によって構成される「まち」や「まちなみ」についても興味がいくようになります。まちづくりにも建築同様に知恵やアイデアが詰まっています。気づけば、建物やまちづくりにも、そしてそこにいる人やものにも愛着を持つようになり、大切にすることが広がっていきます。周りの人やものを大切にすることは、自分を大切にすることにつながります。

「大阪府住まい・まちづくり教育普及協議会」と「教育」を銘打っていますが、そんな難しいことをやっているつもりはありません。自分たちが仕事を通じて感じたことや思っていることを子どもたちや小中学校の先生たちと一緒に考える、一緒に勉強することを心がけています。私達は義務教育課程の専門教育を受けたわけではありませんから、小中学校の先生のように上手に授業をすることはできません。また、それを求められているわけではありません。私達ができることは、子どもたちと「共有」することだと思っています。この「共有」すること、がまさにプロフェッショナルに求められていることだと考えます。

私達の小学校や中学校での子どもたちとの出会いが、その子どもたちの建築の原風景になってくれたら、そしてそのような子どもたちが少しずつ増えていくことで、社会が良くなると信じています。



写真11 住まい・まちづくりを考えよう

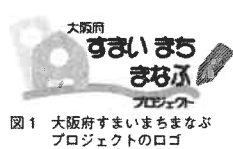


図1 大阪府住まいまちなみプロジェクトのロゴ



写真10 ユメイエ。